

基本目標① 郷土の生業を創る

- 総合化事業計画（6次産業化）の認定件数：5年間累計 2件（←0件）
- 小売業・卸売業の年間商品販売額：年間190億円（←年間156億円）
- 年間観光入込客数：年間40万人（←年間15万人）

（1）「みちのく丸」を拠点としたのへじベイフロント計画

- のへじ常夜燈朝市の売上高：年間900万円（←年間700万円）
※水産業・農業・商業・観光・民間の連携【物販施設等の整備まで開催予定】
- 物販・交流施設等の来場者数：年間3万人（←未整備）
- 水産加工品の開発・販売（6次産業化）：5年間で累計3件（←未開発）
- TV等のロケ地として活用：5年間で累計5件（←0件）
- 「みちのく丸」への寄附件数：5年間で累計30件（←3件）

（2）農林水産業の活性化

- 農業・漁業の新規就業者数（後継者・担い手の育成）：5年間で累計11人（←2人）
- 農地規模拡大の実施件数：5年間で累計5件（←0件）
- 農業法人の件数（農業法人の立ち上げ）：5年間で累計3件（←0件）

（3）味・特産品を生かした新たな雇用創出

- 常時、野辺地ならではの食を味わえる飲食店数：5年間で累計10店舗（←0店舗）

（4）野辺地工業団地への企業誘致推進

- 旧サントリー跡地への企業誘致：5年間で累計2社（←0社）

（5）産業・雇用創出対策の強化

- 新たな起業件数：5年間で累計35件（←6件）

基本目標② 郷土の住みやすさを実現する

- 町外からの転入者数：年間500人（←410人）
- 移住世帯数：5年間累計20世帯（←年間3世帯）

（1）周辺市町村ベッドタウン化推進計画 《転入推進対策》

- 下記の補助金を活用した転入者数：年間3世帯5年間で累計50人（←0人）
①新築住宅建設費への補助（転入者）
②町内の民間賃貸住宅を借りた人への家賃補助（若者夫婦世帯の転入者）
- 空き家・空き店舗バンク制度の利用件数：5年間で累計15件（←0件）
- 自主防災組織の件数（防災に優しい町）5年間で累計10団体（←4団体）

（2）都市と農山漁村交流の推進

- 体験移住（おためし居住）、体験ツアー等の体験者数：5年間で累計20人（←0人）
①一次産業体験 ②各種体験ツアー ③戦隊ヒロインによる体験移住サポート

（3）子育て支援等住宅整備の推進《転出抑制対策》

- 入居者：年間5世帯（←未整備）

（4）首都圏向け災害避難地の提供

- 体験者数：H29年からの3年間で累計100人（←0人）
※首都圏で南海トラフ由来の巨大地震発生に危機感を持っている方々への支援
①災害発生時（避難地として一時的な安住の地を提供）
②災害が起きる前（地盤が安定しており津波の心配も少ないことをPRするなど移住候補先として検討してもらうための「おためし体験」を提供）

基本目標④ 郷土をますます愛し育む「人財」を育てる

- 郷土を愛している人財：現状より増加（←71.5%）

（1）野辺地町の将来を担う人財「野辺地っ子」の育成

- 国公立4年制大学合格者数（地元の高等学校に通う生徒に対する学力向上の支援）
：2校の合計 年間10人（←1人）
①予備校受講料（夏季合宿の費用等）に対する助成
②語学研修費用に対する助成
- 異文化交流の推進（ALT）：英語力テストの参加者平均点10%増
- 家読の実施世帯率（家族ふれあい読書デーの継続）：年間55%（←48%）

（2）スポーツを通じた心身ともに健康な人づくりの推進

- 競技スポーツの強化（全国大会・東北大会に出場する町内にある小学校、中学校、高等学校に在籍する個人・団体に対して強化費を支給）
：全国大会入賞者 <個人>年間 2人（←1人）
" <団体>年間 2団体（←1団体）
東北大会3位以内の者 <個人>年間 10人（←6人）
" <団体>年間 10団体（←6団体）
- 健康数値が良くなった割合（スポーツを通じた健康づくり推進）：90%（←未実施）
- 町営プール水泳運動教室の利用者数：300人（←223人）